

**編集担当委員が語る JSiSE 論文投稿入門 —教育実践をいかに論文化するのか？—
(チュートリアル)**

オーガナイザ：JSiSE 学会誌編集委員会

学会誌掲載論文は学会の顔であり、投稿の質・量の向上が望まれます。JSiSE の対象とする領域は、情報・教育・認知といった異なる学問の融合した分野であり、かつ、近年の e ラーニングや ICT 活用教育の普及に伴い、従来とはまったく異なる対象分野や、教育機関のみならず各種職業分野における応用実践が急速に広がっています。

特に、教育実践研究は JSiSE の活動の特徴でもあり、編集委員会でも実践論文のあり方に関する議論を積み重ねてきました。今回は、昨年度に引き続き「教育実践をいかに論文化するのか？」をサブタイトルに掲げ、実践研究の体系的な方法論やその事例を考察していきます。また、論文の採録基準や査読の進め方についても解説を行います。現在、編集委員会内で検討を重ねている新たな論文カテゴリーの新設についても、検討状況をご紹介します。

チュートリアルでは、以下のような項目について、論文査読を担当している編集委員が解説を行います。

- 論文投稿から掲載までの流れ、投稿に際しての注意
- 論文種別と採録基準 —現状と改訂の方向性—
- 査読の観点と査読コメントに対する対応のノウハウ
- 教育現場の取り組みを実践系論文にまとめるには

特に最後の「教育現場の取り組みを実践系論文にまとめるには」については、編集委員会の中でも、特に医療・看護分野の人材養成における教育システムを活用したさまざまな取り組みを実践論文としてまとめられた経験をお持ちの真嶋由貴恵先生に、現場の取り組みを実践論文化するにあたって、迷いがちな点・困りがちな点・見落としがちな点などを挙げていただき、またそれらに対する基本的な対策をお話しいたします。

これまで論文投稿をしたことが無い方、研究をまとめたのだが論文として求められるレベルがよくわからないという方、実践研究を進めるうえでのポイントやヒントが得たい方のほか、査読を行う際の考え方を整理したい方にも有用な内容と考えております。ぜひふるってご参加ください。

登壇者 氏名・所属：

小西 達裕（静岡大学）・瀬田 和久（大阪府立大）・笠井 俊信（岡山大）・真嶋 由貴恵（大阪府立大）